

インターネットを利用した英語の授業：試みと考察

黒 澤 純 子

愛知東邦大学

インターネットを利用した英語の授業：試みと考察

黒澤純子

目次

1. はじめに
2. 学習対象者
3. インターネット上のサイトを教材として使用することの目標
4. 授業で活用したサイト
5. iPadを使用したことの利点（講師の観点から）
6. 生の反応（アンケートから）
7. 問題点と今後の課題

1. はじめに

90年代に入り、インターネットを学ぶための手段として有効かつ学習に効果があるとした主張は様々ある（Armstrong & Yetter-Vassot, 1994; Cononelos & Oliva, 1993; Mike, 1996; Singhal, 1997; Warschauer, & Healey, 1998）。その中でも、言語の学習について考える時に重要なことは、文化的コンテキスト（文脈）をふまえて言語の学習をすることである。というのも、言語とその背景にある文化は切り離すことができず互いに依存している関係であり、言語を学ぶにあたり、その言語が使われている文化を知ることが重要だからである（Singhal, 1997; 黒澤, 2014）。インターネットから最新の、しかも本物の（authentic）材料を得ることは、その言語を話す国の「地理的、歴史的、社会的、文化的、経済的、政治的な情報を得ること」（Singhal, 1997, p. 4）を可能にし、その国について多角的に理解を深める手助けをするとSinghal（1997）は述べている。

そのような言語の学習の効果が期待ができ、また環境さえ整えば便利に利用できる道具としてインターネットを使用する可能性を考えていた中、2014年度後期、「総合英語」の授業で学生が1人ずつiPadを使用できる機会を与えられた。今報告では実際に授業で取り組んだサイトの内容と、インターネットのサイトを実際に教材として使用した上での利点と問題点について、学生の授業中の反応とアンケート結果を加えて考察する。

2. 学習対象者

「総合英語」は1年生を対象とする必修科目のクラスであるが、再履修者の学生も数名登録している。クラスは計33人が登録し、週2回、半期15週30回の授業である。この30回のうち、iPadを使用する回は事前に希望を申し出た上で決められ、講師はその割り当ての時間を有効に使用す

ることができる。「総合英語」の授業で使用する指定されたテキストもあり、iPadを使用しない時間は、そのテキストを進めることと、iPadを利用してその授業時間中にできなかった補足説明などを行った。この時点での問題点は、授業を登録している学生は毎回全員が出席するとは限らず、欠席者は常に2～4人いた。iPadを使用する回の授業を欠席すると、他の学生との差が出てくるため、欠席した学生は各自でサイトを調べワークシートへの記入すること、そして講師はその後個別にフォローする必要がある。

また、学習対象者全員が英語に対して苦手意識を持っており、初回の授業で行ったアンケートで英語を好きと回答した学生はいない。(好きと回答することと、成績の良し悪しとは無関係であると、事前に言っていた。) また、多くの学生は大学入学までに文法を体系的に学んでいなかった、あるいは学んでも忘れていたようで、サイト上の情報を読み進めるにあたり、中学の内容(単語、文法共に)を復習する時間が必要だった。

3. インターネット上のサイトを教材として使用することの目標

上記のような学生たちを対象に、どのように英語を新たな気持ちで学習してもらうのか、また、基本的な文法事項や単語を覚えて使えるようにするのは最も重要な課題であった。まずは、日常生活において英語が読めることは、より多く情報を得る可能性が広がること、そして多くの情報を得ることは便利かつ、実社会において有利な点もあることを実感してもらい、学習意欲を高めることが大切であると考えた。さらに今までよりも英語が読めるようになることは、自分にとって大きな自信となることを学生に実感してもらうことを目標にした。

4. 授業で取り上げたサイト

授業で取り上げたサイトとその学習内容を列挙する。

1) 糖尿病を警告するサイト、2) アメリカ西海岸、アナハイムにあるディズニーランドのサイト、3) WWFのパンダに関するサイト、4) 世界遺産のサイト、5) FIFA ワールドカップ2014のサイト、6) シンリン(タイリク)オオカミのサイトである。また、7) アメリカメジャーリーグ、MLBのサイト、8) アメリカ西海岸のユニバーサル・スタジオのサイトの二つのサイトは、学生にとって興味のあるサイトどちらかを選択してもらい、学習に取り組んでもらった。学習内容として、講師はサイトごとに事前にワークシートを作成し、学生が各自ワークシートにある設問に答えていく形式をとった。以下、各サイトの内容と、どのような点に重点を置いて学習したのかを記す。

1) Sugar (<http://www.therealbears.org/>)

このサイトは糖尿病を警告するサイトで、前年度に使用した先生が薦めてくださったサイトである。どのようなサイトを活用すれば学生が興味深く感じながら、積極的な姿勢で英語に取り組んでもらえるのかと考えていた時、以前評判の良かったというこのサイトをご教示していただい

た上、ワークシートもくださったことは大きな助けであり、またその後の大きな指針となった。

このサイトでは、砂糖入り炭酸水の過剰摂取と糖尿病の関係、そして糖尿病の怖さを白熊の一家が主人公となって動画で教えてくれる。学生の反応としては、糖尿病 (diabetes) という病気の原因、そして病状が進行すれば切断 (amputation) することにもなるという深刻な内容と単語に戸惑っている様子も多少見られた。しかし、総合的には動画が内容理解の大きな助けとなり、背景に流れている歌はリピート部分が多く、学生にとって比較的取り組みやすいサイトであった。

このサイトに取り組み講師が感じたことは、糖尿病を警告する内容自体に文化的な要素があるということだ。日本では糖尿病を警告するコマーシャルを見かけることはないが、アメリカやカナダでは糖尿病であるかどうかを診断するキット商品のテレビコマーシャルが流れている。糖尿病が身近な国々の状況と日本の状況との違いを学生たちも実感した様子であった。

2) Disneyland Anaheim (<https://disneyland.disney.go.com/>) アメリカのカリフォルニア州、アナハイムのディズニーランドのサイト

このサイトでは、学生が乗りたいと思う乗り物 (ride) を6つ選択する。その乗り物の名前と特徴 (characteristics)、身長制限がある場合はその身長 (height) を記入、さらに、乗り物はランド内のどのエリア (area) にあるのかを記入するワークシートを作成した。この授業は熱心に取り組む学生が多かったため、さらにもう1時間を使い、ディズニーランドで遊ぶことを想定した旅行計画を立てることを試みた。何日遊ぶのかによって違ってくるパークチケットの種類 (Parks and Tickets) の選択とその値段の計算、宿泊するホテル (Places to stay) を決めて何泊するのか、その結果いくらかかるのかを計算した。また、食事はどの店でとるのか、サイト上に掲載されているレストランやカフェから選択し、おおよその金額を算出する学習を行なった。ここまでの作業は全員行うことを目標とし、さらに先に進める学生には、おみやげにしたい商品 (Shops) とその商品についての説明、値段がわかればその値段も調べることにした。大量の情報から適切な情報を取り込むことは容易ではないが、学生にとって馴染みのあるテーマパークであること、また日本と共通のアトラクションや乗り物があるため、比較的取り組みやすい内容であったようだ。学生にとって身近であった内容かつ、疑似体験的に学習できた理由で、アンケートではこのサイトが一番好きだったと回答した学生が一番多かった。

3) WWF Global : Giant Panda、世界野生生物基金、ジャイアントパンダのサイト (http://www.panda.org/waht_we_do/endangered_species/_giant_panda/)

このサイトでは、パンダの生息数 (panda population)、生息地 (habitat)、餌 (diet: What do they eat?)、1日の餌の量、パンダの寿命 (How long do pandas live?)、なぜパンダは絶滅状態に陥っているのか (Why are they endangered?)、という基本的かつ重要点にしぼりワークシートを作成した。ワークシートに書かれている設問はサイト上にあるので、まず設問をサイトの画面から探し、その答えをワークシートに書き出すこと、そしてそれらを訳す作業を行った。すべての

単語がわからなくても、数字を追って回答できる設問もあるため、学生は比較的スムーズにワークシートの記入をしていた。しかし、最後の問い「なぜパンダは絶滅状態に陥っているのか」に関しては、5つの理由があり、その内容も難しく、それぞれを訳すためには文法的な説明を含め、30分近くの時間を費やした。

以上1)～3)の学習が終わった時点でアンケートを行った。1)～3)で興味を持った項目順に番号をつけること、また今後学習したい内容をだまかに書いてもらった。その結果、2)のアナハイムのディズニーランドのサイトに一番をつけた学生が多く、その次は1)と3)は同等の数であった。今後学習したい内容については学生の興味は多様で、リクエストにも様々な項目が挙げられた。その中でリクエストの数の多かった内容を旅行関係とスポーツに大別して、以後の検索学習の課題項目とした。

4) 25 Incredibly Beautiful World Heritage Sites

(<http://www.list25.com/25-incredibly-beautiful-world-heritage-sites/>) 25の世界遺産（写真付き）の場所とその特徴が書かれているサイト

このサイトではまず、世界遺産の定義（44語）を確認した。次に、25の世界遺産の中から自分が行きたい、あるいは興味のある場所を5つ取り上げ、ワークシートに世界遺産名、その遺産がある国名、その国の首都、最後にその国を代表する料理を記入した。

世界遺産名を選択するところまでは正しく書き写す作業であるが、各自が選択した遺産がある国名を書く段階で困惑する学生が多くなった。例えば、国名を書く所にアメリカの州名を書いたり、首都名だけを書いている学生もいた。そのような場合は、講師が確認次第個別に対応して訂正した。ワークシートに国を代表する料理の項目を作成したのは、学生の中に海外旅行や海外の美味しい料理について調べたいという声もあったため、世界遺産と絡めて一つの作業とした。この作業をするにあたって、世界遺産のサイトを読むだけでは解決ができなかった。そのため、学生に他の様々なサイトを試行錯誤しながら各自で検索してもらい、ワークシートの項目を埋めてもらった。このサイトを利用して学習するにあたってインターネットの利点が顕著に表れた。普段自分では検索する機会のない世界遺産を画像で確認できたこと、また料理の写真が掲載されているものが多々あり、ただ単に料理名を書くだけでなく視覚の面でも助けとなり、学生にとってインパクトがあったと思われる。

5) 2014 FIFA World Cup Brazil (<http://www.fifa.com/worldcup/news/>) 2014年ブラジルで開催されたFIFAワールドカップのサイト

このサイトでは、好きな選手あるいは興味のある選手を5人選択し、その選手についてワークシートに書き込む作業を行った。サイト上には選手が所属する国別に選手の顔写真と年齢、身長とポジションが記載されていた。それらをすべてワークシートに項目ごとに書き取る作業を行った。次に、選択した選手が所属する国の首都の確認を行った。選手情報など箇条書きになって比

較的取組やすいサイトであったため、学生は即座に反応し、作業を進めることができた。

発展として身長（数字の）言い方を練習した。学生は百以上の数字に最初は戸惑っていたが、百の位は同じ数字であるため、次第に慣れていった。加えて年齢の問い方と答え方の練習をした。基本的な学習項目であるが、主語を三人称の「彼や彼女」から二人称の「あなた」に変えると戸惑いもあった。しかし、繰り返し練習を行うことで正確にやりとりができるようになった。また、首都を答える段階になると、何も調べずに解答できる学生がほとんどなかったが、インターネットで検索し解答していくことができた。

6) Gray Wolf (シンリンオオカミ)

(<http://www.nwf.org/wildlife/wildlife-library/mammals/gray-wolf.aspx>) についてのサイト

このサイトでは、シンリンオオカミの生息地、餌、このオオカミ系統群（種）を調べてその内容を訳しながら読み取る練習をした。さらに、シンリンオオカミの保護のための寄付を行っている項目に進み（Make a donation in support of WWF's global conservation efforts and choose a thank-you gift）、寄付の趣旨をワークシートに書き写し、その後訳してもらった。次に、学生自身がシンリンオオカミ保護のために寄付をすると仮定し、寄付付きの品物を選択し、その金額の確認（品物はすべてアメリカドルでの提示であったため、日本円へ換算も試みた）をした。このサイトでは以前に3)でパンダのサイトを学習した時の単語が重複していたため、学生の中には比較的容易にワークシートを進める学生もいた。講師が気づいたことは、寄付付きの商品を購入すると、野生動物の保護の貢献につながるというシステムになっていることに学生が興味を持っている様子だった。

以下、2つのサイトでの学習は、スポーツに関心のある学生たちと、テーマパークについて調べたい学生のリクエストに応え、どちらかのサイトを選択して学習できるようにワークシートの準備をした。

7) MLB.com : The Official Site of Major League BaseballのTeam-by-Team Information

(mlb.mlb.com/team) のサイト

このサイトではAmerican LeagueとNational Leagueから各5チームから好きなチーム、あるいは興味のあるチームをワークシートに記入した。次に、そのチームのホーム・グラウンドを確認し、別紙で配布した地図上にホーム・グラウンドのある都市を赤ペンでマークする作業を課した。

この学習は一見簡単に見えるが、見慣れないチーム名を英語で読んでいく作業、そして地図で都市を確認することに時間がかかった。しかし、アメリカの州と大都市の場所の確認は教養として身に付けて欲しいという講師の思いからワークシートを作成した。このサイトを選択したスポーツに興味のある学生は、著しく積極的な学習姿勢を示した。加えて、学習後の感想欄には、「メジャー・リーグにはたくさんのチームがあることがわかった。アメリカの州を探すのは楽しかった。」「地図を見ての作業は勉強になって楽しかった。」という記述がいくつかあった。

8) Universal Studios Hollywood (www.universalstudioshollywood.com) ハリウッドにあるユニバーサル・スタジオのサイト

このサイトでは、乗り物 (ride) とアトラクションの項目から、各自興味ある乗り物とアトラクション名を選び、その特徴を書き写して訳す作業を行った。最後に、日本とアメリカのユニバーサル・スタジオとの違いを書く問いに取り組んでもらった。

アトラクションの説明文には難解な文や単語があり、質問がある学生に対しては説明を加えながらゆっくりと進めていったが、ワークシートに記入する段階では、学生の様子を見回り、個人的に質問を受け付けながら進めてもらった。学生全員のワークシートを始めから終わりまで授業時間内に確認することは不可能なため、授業後にワークシートを回収し、コメント書きと和訳が間違っている箇所を訂正することで対応した。

5. iPadを使用したことの利点 (講師の観点から)

大きく3つの利点が考えられる。

- 1) 学生は講師の講義を一方的に聞く受け身の授業ではなく、学生が主体的に学習できる。
- 2) 自分が得たいと考えている情報が英語で書かれている場合、いやおう無しに英語で情報を理解しなくてはならないという現実直面する。英語を学ばなくてはならないという気持ちが高まる。
- 3) 英語力の差あるため、それぞれの学生の進度に違いはあるがサイト上の画面と向き合い、対話式 (interactive) な作業になる。実際、ワークシートは授業後回収され、記入した内容をチェックされ平常点として加算されるため、学生一人一人が真剣に取り組んだ努力が見られた。

6. 学生の反応 (アンケートから)

前項目の講師側が考えていた利点をふまえ、学生のアンケートの内容を概観する。「自分のペースで、自分で調べて学習を進めていくことができ良かった」と回答した学生は11人いた。さらに、「自分で調べたからこそ、後に内容を思い出すことができた」、「黒板を写すだけでなく良かった」、「自分で調べてワークシートに取り組むことが新鮮で楽しかった」と書いている学生もいた。次に多い回答は4人で、「画像が参考になった」、「画像があり理解しやすかった」という学生であった。次に「英語のサイトなので、外国の人たちも同じサイトを見ていること、共有していることを実感した」という内容の回答は3人いた。そして「最新のことを知ることができた」、「インターネットを使うということ自体が学習する上で動機が高まった」という回答が各1人いた。画像を見ることができるとか、最新の情報を得ることができるとかいうことはインターネットを使用する大きな利点と言える。また、前項目の講師の観点からみた利点と学生の感想がほぼ一致していることがわかった。

7. 問題点と今後の課題

インターネットを教材として使用する場合、学生一人に一台のコンピューターが使用できる環境が必然的であるが、授業のたびにコンピューターを使用できる状況ではない可能性がある。前授業の続きとしてiPadを使用したくても、他の先生の使用時間と重なることもある。授業内容を計画的に立て、授業の進度もその計画に沿うようにしていくことが大切である。

また、学生が興味を持ってそうな内容のサイトの検索と選択をして学習を試みたつもりだが、30人を超える学生すべての学習進度をすべて確認することは実際に困難であった。学習の対象となるサイトに行き着くまで、あるいは行き着いたとしてもその後の作業をどう進めていくのかわからない学生に寄り添い、質問に答えて、学生がよりスムーズにワークシートをこなしていく指導を行うよう心がけたが、全員の学生が真剣におよそ90分間の授業を受けていたかは疑問である。一人1台のiPadを使用することで個人の学習は能率が上がるが、講師の目の届かない時間ではどこまで学生が真剣に取り組んでいるのかは、ワークシートの完成度を見て講師が判断するしかなかった。そのため、授業中の取り組みの中での到達目標をクリアしている場合は合格とした。同様に、英語学習という点においても、学生学個人がどのくらい学習成果があったかは授業後すぐには把握できない。後日、授業で学習したサイトから学習到達度を確認するテストを行うべきだったという反省点がある。学生の学習成果を上げることに重点を置き、学習するサイトそのものを英語学習目的のものにすれば、講師側が学生の進捗や到達度を把握できるが、一方学生側の興味が半減し、学習する動機が低くなる可能性があるであろう。

また、インターネット上のサイトを教材として使用し難しかった点は、授業の成果を見るための試験の出題内容であった。学生全員に公平な試験であるには、第一に学生が全員同じところまで進めたサイトであることが必須条件である。そして授業中にサイトの内容（訳など）を詳しく説明した箇所しか出題できないことから、試験の出題範囲に制限があった。加えて、説明をしている授業時に学生全員が出席しているとは限らないため、試験前に再度復習の時間を設ける必要があった。

以上の問題点を考えると、インターネットを使用する学習は英語学習や習得の主にはならないことがわかる。インターネットはあくまで学生が学習意欲を湧かせる、あるいは学習の動機を高めるための一つの手段、あるいは道具であることがわかる。しかし、一方でインターネットを学習に利用する可能性は無限である。学生が今後インターネットを使用していくに当たり、英語で書かれているサイトの多さを知ること、そしてそれらの中から自分の知りたい情報を取捨選択し、正確に読んでいくことは情報社会において有効であることを認識することが重要なことなのではないだろうか。

講師側に必要なことは、学習するため、あるいは学習の動機を高めるために教材として何の題材を取り上げるか、学生たちの興味を引きつけ、知的好奇心を抱かせるテーマを選択することである。そして、学生たちが達成感と充実感を味わえるワークシートを準備することが重要である。講師側も常に情報に敏感である必要性を感じた。今後一人一台のiPadを授業で使用する機会に恵

まれるならば、上記の事柄を念頭に置き、学生に複数回アンケートを行うこと、また授業前後の学生たちとの会話の中に学生の興味の対象となる題材のヒントを見出すことが課題だと考えている。

引用文献

- Armstrong, K. M. & Yetter-Vassot, C. (1994). Transforming teaching through technology. *Foreign Language Annals*, 27(4), 475-486.
- Cononelos, T. & Oliva, M. (1993). Using computer networks to enhance foreign language/culture education. *Foreign Language Annals*, 26(4), 527-534.
- 黒澤純子 (2014). 「Hi, friends!」における「文化」の指導について：言語指導における文化体験をコミュニケーション能力につなげる」。『東邦学誌』第43巻第1号, 153-165.
- Mike, D. (1996). Internet in the schools: A literacy perspective. *Journal of Adolescent and Adult Literacy*, 40(1), 1-13.
- Singhal, M. (1997). The internet and foreign language education: Benefits and challenges. *The internet TESL Journal*, Vol. III, No. 6, <http://www.gse.uci.edu/ed168/resume.html> から採取
- Warschauer, M., & Healey, D. (1998). Computers and language learning: An overview. *Language Teaching*, 31, 57-71.

受理日 平成27年3月24日